人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権教育の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例

１．基本情報

○都道府県名及び市町村名

石川県鳳珠郡穴水町

○学校名

穴水町立向洋小学校

○学校のＵＲＬ

http://school.town.anamizu.ishikawa.jp/smes/

２．学校紹介

○学級数

【通常の学級】全学年各１学級　【特別支援学級】２学級　【合計】８学級

○児童生徒数

【全児童数】７４人（平成２３年１２月１日現在）
（内訳：１年生７人、２年生１９人、３年生１３人、４年生１４人、５年生７人、
６年生１４人）

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】
『やさしく、かしこく、たくましく』
「仲良く助け合う子・進んで学び合う子・元気にやりぬく子」の育成
【研究主題・副題】
思いを伝え合い、豊かな人間関係を築く子をめざして
～つながりを大切にした活動を通して～

○人権教育にかかる取組の全体概要

┌【授業づくり部会】　思いを伝え合い、互いを認め合える授業
　人権教育学習プログラムの作成
　「かかわり合い」を大切にした授業づくり
　ゲストティーチャーとの学習
├【人間関係づくり部会】　豊かな人間関係が築かれる活動
　人間関係の把握（「学級集団の傾向を把握するためのアンケート」・個別面談など）
　交流の場の設定（全校集会での活動、縦割り班活動・異学年交流、地域との交流）
└【環境づくり部会】　一人一人が尊重される環境
　校内の環境づくり、啓発活動

３．特色ある実践事例の内容

◆各教科･道徳･総合的な学習の時間における「かかわり合い」を大切にした授業づくりの取組

人権が尊重される授業づくりを考えた時、私たち教師が、どのような授業計画を立て、授業を仕組み、どのような配慮をして児童の人権意識を育てていくかが、最も重要な事柄であると捉えた。

そこで､人権が尊重される授業づくりの視点例(〔第三次とりまとめ〕の三つの視点)、

・自己存在感を持たせる支援を工夫する。
・共感的人間関係を育成する支援を工夫する。
・自己選択・決定の場を工夫して設定する。

→『かかわり合い』

を授業づくりに生かし、人権教育を進めていくこととした。なかでも、「共感的人間関係を育成する支援を工夫する」ことが、共感的に理解する力や伝え合い分かり合うためのコミュニケーション能力の育成に強く関連するものと考え､『かかわり合い』として、どの学習でも留意して指導を進めた。

『かかわり合い』を支える力を育てるために、毎日設定してある帯の時間（「スキルタイム」）に週１度コミュニケーション能力の育成の活動を設定した。また、「書くこと」で自分の思いや考えを深め、より積極的に表現できるものと考え、授業の中に書く活動を多く設定することにした。

◆豊かな人間関係の構築をめざした教科外の活動における縦割り班活動の取組

伝え合い分かり合うためのコミュニケーション能力や他の人との人間関係を調整する力の育成を目指す時、様々な学年の児童との人間関係をつくりあげる力を育成することが必要であると考え、交流の場を設定した。学習で学んだ『かかわり合い』を体験する場としても捉え、全校で６つの縦割り班（児童委員会を核としたもので、12～13 名）を組織し、次のような活動を計画し取り組んだ。いろいろな人間関係が生まれるなかで、どうすれば円滑な人間関係をつくりあげられるのか学習する場となると考えた。

日常の活動	行事等での活動
・ふれあいあいさつ	・ふれあい遠足
・ふれあいそうじ	・ふれあい運動会
・ふれあいランチ	・ふれあいタイム

◆一人一人の人権の尊重をめざした校内の環境づくりの取組

一人一人が大切にされ認められていると感じられるように、人権が尊重されるような校内の環境を整えた。また、自分たちの活動の様子が視覚的にとらえられ、互いを認め合えるような場も設定した。

・『ふわふわ言葉』コーナー　　・『心のかけ橋』コーナー
・『人権標語』コーナー　　・『ふれあいあいさつ』コーナー
・『ふれあいタイム』コーナー

４．実践事例の実績、実施による効果

◆ 各教科・道徳・総合的な学習の時間における「かかわり合い」を大切にした授業づくりの取組

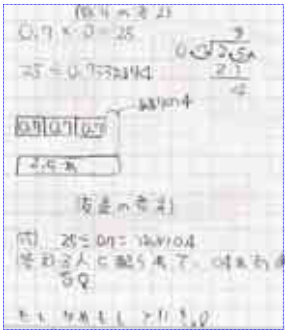
２年生活「どきどきわくわくまちたんけん」

～２年学級とたんぽぽ学級（特別支援学級）の交流～

互いに認め合い思い合う心を育むために、交流の時間を大切にしてきた。みんながともに学ぶ同じ立場であることを意識できるように、Ｔ１の教師はどの児童にも同じように接し、Ｔ２の教師は少し離れたところから全体を見守るようにしている。

学習のめあてを確認した後、グループの約束を話し合わせてから「町たんけん」に出かけたところ、友だち同士で約束を守るように声をかけ合ったり、出会った人に「インタビューに行こう。」と誘い合ったりする姿が見られた。どの児童も友だちとかかわり合いながら、それぞれの仕事をやり遂げようとしていた。

５年算数「小数のわり算」



あまりのある小数のわり算では、あまりを整数にする児童がいることが予想された。

課題をつかんだ後、「考える」段階では、数直線や図を使うなど、友だちに分かりやすく伝えられるように自分の考えをまとめることにした。

「深める」段階では、それぞれのノートを大型ＴＶに映して発表したところ、友だちを意識しながら説明することができた。また、聞いている児童も、友だちの考えをしっかり聞くことができたので、課題について全員が正しく理解できた。

６年音楽「いろいろなひびきを味わおう」

いろいろな楽器での演奏を聴いて、自分たちのアンサンブルの工夫について話し合った。最初はなかなか話し合いが進まなかったが、それぞれの役割について話したことで、折り合うきっかけをつかみ自発的に取り組むことができた。

グループごとの発表では、楽器の組み合わせによる曲想の違いなどに気をつけて聴くことや、音楽用語を使って伝えることなどの視点を与えた。相手グループの演奏の上手なところや自分たちのグループとの違いを見つけ、伝え合うことができた。

１年道徳　主題名「どこでやめるのか」（資料名「かぼちゃのつる」）

かぼちゃの自分勝手な行動を通して、人の注意を聞き入れることの大切さについて考えた。

役割演技をした後、終末でゲストティーチャーによる絵本の読み聞かせをしたところ、ねらいとする価値に迫ることができた。

授業後、自分のあさがおのつるが隣の支柱に伸びているのを見て、「行ってはいけませんよ。ごめんね。」と言いながら自分の支柱にもどしている姿が見られた。

◆　豊かな人間関係の構築をめざした教科外の活動における縦割り班活動の取組

「ふれあいあいさつ」

児童会によるあいさつを推進する活動は、縦割り班で工夫して取り組むこととし、１週間の期間を縦割り班ごとに話し合って分担した。

各班は、よりよいあいさつ運動にしようと、立つ場所、声かけの方法、行う時間帯を班員全員で考え、話し合った。

まず、計画した通りに実践し、振り返りをした。そして、もっとあいさつが元気に交わされるためにはどうしたらよいかを話し合った。

進んであいさつをしてくれた友だちの姿に触れ、どの班も活動して気持ちよさを味わうことができた。

「ふれあいランチ」

月一回「ふれあい給食デー」を設定し、縦割り班ごとに集まり給食を食べている。会話が自然とはずみ、班員の交流を深める機会となっている。座席の配置や配膳の手伝いと確認は、班のリーダーが行っている。班員が楽しめるように座席を考えたり、会食の時間が長くなるように配膳を手際よくしたり、リーダーが自主的に考えて活動する姿が見られる。

普段は偏食のある児童も、この日ばかりは時間内に食べようとがんばっている。

「ふれあい遠足」

今年度は、全校の児童が早く仲よくなりたいという願いをもっていたので、４月に縦割り班に分かれて徒歩遠足をした。校区の寺院群である「さとりの道」でのポイントラリー形式にして行った。

まず、縦割り班で事前に遠足の計画を立てた。ポイントとなる神社にいくつ寄ろうか、どのコースで歩いて行こうか、お弁当はどこで食べようかと地図を見ながら班全員で話し合って決めた。

そして、当日はその計画通りに歩いて行った。道中は、６年生が班のリーダーとなり、安全で楽しい遠足となるように声かけをしていた。６年生にとって、最上級生であることを自覚する場となった。また、下級生は、リーダーの話を聞いて守ろうとしていた。互いに協力し、みんなが楽しめる遠足になるように意識していた。ゴールに着くころには名前を呼び合う微笑ましい姿が見られた。

「ふれあいタイム」

毎週木曜日の昼休みに大縄跳びの活動をしている。３学期の縄跳び大会に向けた活動である。縦割り班ごとに跳ぶ回数の目標を掲げ、班で練習を重ねている。リズムを合わせるためにかけ声をかけたり、苦手な下級生の手を取って一緒に上級生が跳んだりして、班ごとに工夫して練習に取り組むようになっている。また、失敗しても仲間を励ましたり、よいところを認め合ったりする姿も見られる。

どの班も跳べる回数が増えているので、力を合わせることの喜びを感じている。

◆ 一人一人の人権の尊重をめざした校内の環境づくりの取組

人権尊重の雰囲気を醸成する上で、児童が生活している学校内外の環境づくりも大きな役割を担っている。児童一人一人が尊重され認められていると感じられる掲示や児童の人権感覚を刺激するような掲示を工夫してきた。

＜心のかけ橋＞

全校で活動したり講演を聴いたりしたあとに、全児童が感想を書いている。感想の掲示が、「みんなの心と心が通じ合える場」となることを願い、虹のかけ橋を連想し作成した。掲示は、児童が一日に一度は利用する階段踊り場に設置した。児童の感想が一目でわかるように、学年別に虹の色を決め感想を掲示した。また感想の内容が分かるように、表題とその時の写真なども掲示している。友だちの思いを知ろうと、足を止めてゆっくりと見ている児童の姿が見られた。

【児童の反応】

みんながちがうことを書いているから、そう思っているのだなあと思う。（低学年）

心のかけはしを見たら、人の気持ちがわかるよ。（低学年）

みんな、こんなことを考えているんだね。初めて知ったよ。（高学年）

前にしたぎょうじをわすれるかもしれないけれど、はってあるといつまでも心にのこるよ。（低学年）

一つのことに、みんながそれぞれに感想を持つことがわかる。そして、一人ひとりいろいろな感想があることがわかって、よかった。自分が気づかないこともあるから、いい。（高学年）

この階段、この『心のかけ橋』ができてから明るくなったね。（高学年）

５．実践事例についての評価

○ 取組についての評価

・児童一人一人を大切にして、人権により配慮した授業を意識できるようになった。児童にも教師にも、「自分を大切にし、相手を大切にする」という人権意識が育ってきている。

・違う考えを持つ友達に対して、共感的に受け入れる態度が育ってきている。
・縦割りや異学年交流を通して、児童同士の微笑ましい学び合いや思いやりの姿が多く見られるようになった。お互いの姿に刺激されて、もっとよい方向へ変わりたいと努力する姿勢が見られるようになってきている。

○ 保護者や地域の方からの反応

・ふわふわ言葉を学習して、「ありがとう」が一番好きで２番目は「大丈夫」という言葉だと話していました。家でも「ありがとう」とよく言ってくれます。親の私も「ありがとう」を言ってあげようと思います。　　（保護者の声）
・人権通信で、道徳の授業や縦割り活動の様子を具体的にお知らせしてもらい、家でも会話ができます。　　（保護者の声）
・研究発表会には、他校の教員・保護者ばかりではなく、地域の方の参加も多く見られた。

○ 課題

・縦割り班での活動の内容を精選・再検討し、児童の縦のつながり・横のつながりを深めたい。また、日々の縦割り班活動については、児童が話し合って主体的に進められるようにしたい。
・授業づくりでは、「かかわり合い」のある話し合いをさらに深めていきたい。

【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

穴水町立向洋小学校
全校７４名の小規模校の特色を活かした人権尊重の視点に立った学校づくりに重点を置いた事例である。 人権が尊重される「授業づくり」においては,共感的な人間関係を育てるために,コミュニケーション能力を育てるスキルタイムを毎週設定している。また,そこで培った力を発揮するため,縦割り班での掃除や給食などの日常活動,遠足や運動会などの行事の場面を設定し,「人間関係づくり」の学習の場としている。さらに,「環境づくり」においては,全校で学習したり,活動した後の全校児童の感想を「心のかけはし」コーナーに掲示をしたりして,互いが読み合う中で,学年を越えて,一人ひとりの心と心が通じる場としている。 これらの,小規模校ならではの,きめ細かい取組が至る所で展開されていることに学びたい。取組の成果として,児童にも教師にも「自分を大切にし,相手も大切にする」という人権意識が育ってきている。